

# 平成 26 年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成 27 年 4 月 13 日

研究・研修課題名	地域貢献を志向した生活習慣病（がん、呼吸器）診療ネットワークの構築と教育体制の確立
研究・研修組織名（所属）	生活習慣病（がん、呼吸器）診療ネットワークワーキング （所属：呼吸器・化学療法内科 総括責任者：磯部 威）
研究・研修責任者名（所属）	須谷 顕尚（呼吸器・化学療法内科）
共同研究・研修者名（所属）	

## 目的及び方法、成果の内容

### ① 目 的

人口の高齢化が進む島根県においては、がん、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、気管支喘息、睡眠時無呼吸症候群が急増している。これらの疾患は、喫煙や、生活習慣の悪化に伴う生活習慣病であり、今後は予防を含めた幅広い教育、診療、研究が必要とされる。島根県では松江を除く 2 次医療圏においては呼吸器専門医、がん治療専門医が大学病院以外にはほとんど在籍していないため、医学生、研修医に対してのこれらの教育、診療、研究体制が不十分である。この問題の解消のためには、大学病院を中心とし、地域の病院、診療所とのネットワーク構築が重要であると同時に、少ないマンパワーでの効率的な教育体制を確立することが急務と考えられる。

### ② 方 法

- A. 松江を除く 2 次医療圏に対してがん、呼吸器）診療と教育の現状に関するアンケート調査を行い、現状把握と問題点を抽出。結果については日本病院総合診療医学会、日本呼吸器学会、日本臨床腫瘍学会で発表する
- B. 教育システムの確立のためのワーキンググループを設置し、研修医ならびに地域医療担当医を対象としたセミナーを開催する

### ③ 成 果

- A. がん診療の現状と地域連携の実態把握のために、中四国のがん診療拠点病院における、がん化学療法に伴う発熱性好中球減少症の治療および G-CSF 使用方法のアンケート調査を実施した。都道府県がん診療拠点病院 8 施設および地域がん連携病院 55 施設にアンケートを発送し 12 施設、147 名より解答を得た。また当院のがん治療認定医 33 名にもアンケートを依頼し、10 名より解答を得た。現在アンケート内容を集計しており、近く学会発表する予定である。
- B. 医学部の学生および研修医、地域医療担当医を対象とした呼吸器診療スキルアップセミナーを開催した。27 名の参加があり、2 日間にわたり画像診断・胸腔穿刺・血液ガス・気管支鏡・気管挿管・人工呼吸器に関する実習・レクチャーを行った。また当科の津端由佳里医師および外部講師として飯塚病院の清田雅智先生を招いてセミナーも行い、呼吸器診療への知識と手技を深めてもらった。今回のセミナーは当科を中心にスキルアップセンターと呼吸器学会の共催のもと開催された。今回確立した教育体制を用いて来年度以降もセミナーの開催を予定している。